

みんなを笑顔に “観光未来都市まつやま” ～瀬戸内の 島・里・山をつなぐまち～

愛媛県松山市（2020年度選定）

1. 地域の特徴と課題及び目標

本市は愛媛県の中央に位置し、都市部の利便性と「島・里・山」などの豊かな自然環境がコンパクトにつながった、人口約50万人を有する四国最大の都市である。

日本最古の温泉といわれる道後温泉などの観光資源、正岡子規の輩出をはじめとする文学的土壌の豊かさ、瀬戸内海国立公園の中に浮かぶ忽那諸島などの豊富な自然環境が特徴である。

産業構造は第3次産業が約8割を占め、産業別特化係数は特に宿泊業が高い。

歴史や文化資源、自然環境など、先人から受け継がれてきた「宝」を、50・100年後も残すことができるよう、松山SDGsプラットフォーム事業で多様なステークホルダーと協働し、地域課題の解決と団体自体の持続可能性も確保することで、自律的好循環の形成を目指す。

2. 関連するゴール



3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)

- ・産学民官金などで構成する「松山市SDGs推進協議会」を核に、個人会員から成る松山市サポーターズクラブと連携する。
- ・地域課題に関わるステークホルダーが参画し、新たな価値を創出することで複数課題の同時解決を図る。
- ・松山市は、上記スキームの好循環を促す役割を担い、三側面を統合的に推進する。

4. 自治体SDGs推進等に向けた取組

「松山市SDGs推進協議会」では、地域課題の解決に向けた5つの官民連携プロジェクトが立ち上がっている。その内「スマートアイランドモデル分科会」では、忽那諸島の1つである中島を舞台に人口減少や高齢化、エネルギーの脆弱性など地域課題の解決に取り組んでいる。

具体的には、各団体がアイデアやノウハウを持ち寄り、島内の移動手段と自立電源を確保するほか、中島の魅力向上につながる取組を行っている。



5. 取組推進の工夫

「スマートアイランドモデル分科会」に参画している15団体が、「中島の魅力向上と魅力発信」と「カーボンニュートラル」に重点を置き、団体間で連携して活動しており、定期会議開催のほか、クラウドで情報共有できるプラットフォームkintoneを使用し、協議録や各団体の取組を共有している。

6. 取組成果

スマートアイランドモデル分科会の取組として、令和3年4月からグリーンスローモビリティの実証運行を開始し、令和6年3月末で乗車人数が1,366人となった。ソーラーカーポートで発電し自家消費した電力の一部は、グリーン電力証書化して販売することで、三側面をつなぐ統合的な取組による相乗効果を得られた。

大浦港北側広場に島内2基目となるソーラー充電スタンドを設置し、再エネの地産地消に向けた取組を推進した。

また、本土から中島地域への回遊を促進するため、ワーケーションや首都圏の親子を対象にしたモニターツアーを実施した。また、島内のにぎわい創出に向け、民間事業者が主体となってテントサウナなどの新たなイベントを実施した。

さらに、本土と中島をつなぐ三津浜と中島島内の観光モデルルートを観光ナビアプリで作成し、実証を行った。



7. 今後の展開策

これまで実証的に行ってきた取組を地域に実装できるよう、中島で島のにぎわい創出に取り組んでいる民間事業者や団体を巻き込んで活動を行う。また、大学生や高校生などの若い世代が参加できるような機会を作り、新たな地域の担い手の創出につなげる。

8. 他地域への展開状況（普及効果）

四国内の企業や自治体等が参加する「ローカルSDGs四国」や他地域からの視察、広報媒体などで、自治体としてSDGsの取組に加え、協議会や分科会の活動状況等の発信を行った。

SDGs未来都市等進捗評価結果報告シート

2020年度選定

愛媛県松山市

2024年9月

SDGs未来都市計画名	松山市SDGs未来都市計画
自治体SDGsモデル事業 又は特に注力する先導的取組	“観光未来都市まつやま”推進事業

愛媛県松山市 第 1 期 S D G s 未来都市計画：計画期間2020年～2022年

（ 1 ） 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2022年	2030年（目標値）	達成度 （％）	第2期計画（または独自計画）の KPIへの反映状況
1	観光客推定数【8.9】	2016年 5,827,900 人	2022年 4,785,600 人	2030年 6,269,000 人	-236%	第2期計画では、自治体SDGsの推進に資する取組指標として、KPIを2025年6,000,000人に見直し、進捗を確認していく。 目標値達成度が低いため、旅行業者や航空事業者と連携し旅行商品を造成するとともに、関西圏域の他、九州までプロモーション展開することで誘客を図る。
2	市内総生産【9.2】	2016年度 1.6 兆円	2020年度 1.6 兆円	2030年度 1.6 兆円	100%	目標を達成できており、引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
3	今後も松山市に住み続けたいと思う市民の割合【8.5】	2018年度 86.0 %	2022年度 82.3 %	2030年度 88.5 %	-148%	目標達成度が低いため、第2期計画では見直し、記載しないが目標達成へ向け、別の計画で推進を図る予定。
4	防災士数※累計値【11.5】	2018年度 4,300 人	2022年度 8,195 人	2030年度 7,700 人	115%	第2期計画では、自治体SDGsの推進に資する取組指標として、進捗を確認していく。 目標を達成できており、KPIを11,400人に見直し、更なる推進を図る。 新たな指標は、【自主防災組織結成率】とし、KPIを100%に設定して進捗を確認していく。
5	環境学習会等の受講者数【4.7】	2018年度 5,106 人	2022年度 4,962 人	2030年度 8,400 人	-4%	目標達成度が低いため、第2期計画では国内外の多様な主体と連携しながら先進的な情報の収集や活用を図り、持続可能な開発を支えるグローバル人材の育成に向けた環境教育を行う。
6	松山市域からの温室効果ガス排出量【7.2】	2016年度 481.0 万t-CO ₂	2020年度 419.0 万t-CO ₂	2030年度 405.0 万t-CO ₂	82%	順調に進捗しており、引き続き進捗を確認していく。

（ 2 ） 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2022年 実績	2022年 目標値	達成度 （％）	第2期計画（または独自計画）の KPIへの反映状況
1	産業の活性化と交流・関係人口が拡大する、賑わいがあり選ばれるまち	RPA補助件数※累計値	2019年度 11 社	2022年度 30 社	2022年度 24 社	146%	目標が達成されたため、第2期計画には記載しないこととした。
2		空き家バンクのマッチング数※累計値	2018年度 80 件	2022年度 200 件	2022年度 105 件	480%	目標が達成できており、第2期計画では指標を【島の空き家バンクのマッチング数】に改め、KPIを102件とし、引き続き進捗を確認していく。
3		俳句ポスト投句数	2018年度 175,871 句	2022年度 106,332 句	2022年度 194,000 句	-384%	第2期計画では指標を「俳句ポスト投句数」から「俳句ポスト365の一兼題あたりの投句者数」に変更し、KPIを11,934人に設定して、引き続き「松山・俳句」の知名度・ブランディングを向上させ、松山への誘客につなげる。

愛媛県松山市 第 1 期 S D G s 未来都市計画：計画期間2020年～2022年

No	取組名	指標名	当初値	2022年実績	2022年目標値	達成度(%)	第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
4	コンパクトで、防災力も高く、多様な主体が活躍する安全安心で快適なまち	路面電車の1日あたり利用者数	2018年 19,802 人/日	2022年 15,305 人/日	2022年 19,800 人/日	77%	目標達成度が低く、第2期計画では見直し、記載しないが目標達成へ向け、別の計画で推進する予定。
5		ポンプ蔵置所耐震化率	2020年2月 89.22 %	2022年 97.89 %	2022年 96.94 %	112%	目標を達成できており、第2期計画では大規模災害に備え、更なるポンプ蔵置所の耐震化を進めるべく、KPIを98.95%に見直し、更なる推進を図る。
6		まつイチ体操(＊)継続自主グループ数※累計値(＊)介護予防や健康寿命の延伸を目的に、本市の理学療法士が考案した体操	2018年度 241 グループ	2022年度 269 グループ	2022年度 370 グループ	22%	目標達成度が低く、第2期計画では見直し、記載しないが目標達成へ向け、別の計画で推進する予定。
7	協働が築く、豊かな自然環境が共生するまち	中学生のフライブルク市派遣人数※累計値	2018年度 20 人	2022年度 36 人	2022年度 68 人	33%	目標達成度が低く、コロナウイルス感染症をきっかけに事業を見直したため、第2期計画では記載しないが、目標達成へ向け、別の計画で推進する予定。
8		住宅などに設置された太陽光発電システムの整備容量※累計値	2016年度 140,491 kW	2022年度 196,584 kW	2022年度 151,000 kW	534%	目標が達成できており、第2期計画ではKPIを198,527kWに見直し、更なる推進を図る。
9		下水処理の消毒剤として使用するエコ次亜の使用量※累計値	2018年度 5,420 m ³	2022年度 27,195 m ³	2022年度 27,240 m ³	100%	概ね目標を達成できており、第2期計画ではKPIを42,000m ³ に見直し、更なる推進を図る。

(3) 三側面ごとの取組の達成状況（自治体 S D G s モデル事業又は特に注力する先導的取組）

No	取組名	取組内容	指標名	当初値	2022年	2022年（目標値）	達成度(%)	第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
1	【経済】 ①ー 1 地域固有の資源を活用する『坂の上の雲』フィールドミュージアム構想の推進	・民間企業とまつやま農林水産物ブランド製品を使用した商品を開発し、取り扱い店舗数の増加につなげた。 ・町家バンクの情報発信をこれまで実施していたことに加えてSNSによる情報発信を強化した。	観光客推定消費額（市内）	2018年12月 788 億円	2022年 645 億円	2022年 795 億円	-2043%	第2期計画では、2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組指標として、KPIを2030年828億円に見直し、進捗を確認していく。 目標達成度が低いため、外国人も含めた観光客の多様なニーズに対し、道後温泉、松山城や俳句といった歴史や文化を観光資源とするほか、豊かな自然環境など市域に点在する地域資源も活用し、本市の観光関連産業の活性化を図る。
2	①ー 2 道後温泉本館や松山城、「ことばのちから」などを活用した文化ツーリズムの推進		「まつやま農林水産物ブランド」産品取扱い店舗数※累計値	2019年3月 356 店舗	2022年度 637 店舗	2022年度 416 店舗	468%	目標が達成できており、第2期計画では指標を【まつやま農林水産物ブランド産品数】へ見直し、KPIを13品に設定し、農業者の経営安定化を図るため、産品の高付加価値化などに取り組む。
3	①ー 3 柑橘（ビタミン）×美人の湯×買い物＝癒し 紅まどんななど、農林水産物のブランド力強化		三津浜地区の空き家バンク（町家バンク）のマッチング件数	2019年3月 53 件	2022年度 98 件	2022年度 69 件	281%	目標を達成できており、第2期計画ではKPIを100件に見直し、更なる推進を図る。

愛媛県松山市 第 1 期 S D G s 未来都市計画：計画期間2020年～2022年

No	取組名	取組内容	指標名	当初値	2022年	2022年（目標値）	達成度（%）	第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
4	【社会】 ②ー 1 地域コミュニティが主体となったオール松山体制の防災力強化	・松山市防災教育推進協議会で、産官学民の様々な意見を防災教育プログラムに取り入れた。 ・愛媛大学の松山防災リーダー育成センターと連携し、様々な世代や職域に防災教育プログラムを実践した。	1日（4時間当たり）の中央商店街の歩行者通行量※平日と休日（各1日）3地点合計値	2019年12月 48,692 人	2022年 32,115 人	2022年 48,804 人	66%	目標達成に向け、第2期計画でも、市街地再開発事業など民間主導の取組を支援することで、魅力的な都市機能の強化や賑わい空間の創出を図るなど引き続き推進する。
5	②ー 2 歩いて暮らせるコンパクトシティ＋ネットワークの推進（交通結節点と“まちなか”の再開発）		自主防災連合会の訓練実施率	2019年3月 73 %	2022年度 61 %	2022年度 85 %	-100%	目標は達成していないが、第2期計画では見直し、記載しないが目標達成へ向け、別の計画で推進する予定。
6	②ー 3 文化的土壌を活かした女性・障がい者・若者・高齢者など多様な主体が活躍する社会の形成		防災教育プログラム実践件数※累計値	2020年3月 0 件	2022年度 108 件	2022年度 60 件	180%	目標を達成しており、第2期計画では南海トラフ巨大地震などに備えるため、KPIを290件に見直し、更なる推進を図る。
7			「ことばのちから」や「松山ブンカ・ラボ」のイベント参加者数	2020年3月 3,770 人	2022年度 4,408 人	2022年度 4,670 人	71%	目標は達成していないが、第2期計画では見直し、記載しないが目標達成へ向け、別の計画で推進する予定。
8	【環境】 ③ー 1 フライブルク市との連携（SDGs姉妹都市宣言、エコフレンドシップ協定）	・ZEHと蓄電池システムの設置補助件数の増加について、ネットゼロエネルギー都市の推進のため予算を増加した。 ・「ほしふるテラス姫ケ浜」の利用者数の増加について、瀬戸内海の島である中島の拠点「ほしふるテラス姫ケ浜」を建て替えるとともに、夏季のみの利用期間を年間を通じての利用とし、サステナブルツーリズムの推進を図った。	エコフレンドシップ協定に基づくウェブ環境会議交流人口※累計値	2019年3月 0 件	2022年度 42 件	2022年度 60 件	70%	目標達成に向け、第2期計画でも、市民の環境意識の醸成のため、環境教育の相互交流を通じ体験型学習を充実させるなど引き続き推進する。
9	③ー 2 サンシャインプロジェクトを軸としたネットゼロエネルギー都市の推進		ZEHと蓄電池システムの設置補助件数※累計値	2019年3月 168 件	2022年度 2,056 件	2022年度 600 件	437%	目標が達成できており、第2期計画ではKPIを2,333件に見直し、更なる推進を図る。
10	③ー 3 瀬戸内海国立公園などを活用したサステナブルツーリズムの推進		瀬戸内海国立公園内「ほしふるテラス姫ケ浜」の利用者数	2019年3月 1,294 人	2022年度 3,716 人	2022年度 1,550 人	946%	目標が達成できており、第2期計画ではKPIを累計10,000人に見直し、更なる推進を図る。

（ 4 ） 三側面をつなぐ統合的取組の達成状況（自治体 S D G s モデル事業又は特に注力する先導的取組）

No	指標名	当初値	2022年実績	2022年目標値	達成度（%）	第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
1	【経済→環境】 松山グリーン電力証書販売件数	2019年3月 10 件	2022年度 17 件	2022年度 50 件	18%	目標は達成していないが、第2期計画では見直し、記載しないが目標達成へ向け、別の計画で推進する予定。
2	【環境→経済】 外国人観光客数	2018年12月 217,400 人	2022年 17,400 人	2022年 228,100 人	-1869%	目標達成に向け、第2期計画でも引き続き取り組みを推進する。
3	【経済→社会】 労務改善を実施した企業数	2020年3月 0 件	2022年度 16 件	2022年度 18 件	89%	目標は達成していないが、第2期計画では見直し、記載しないが目標達成へ向け、別の計画で推進する予定。
4	【経済→社会】 市内外国人を対象とした防災研修の実施件数	2020年3月 4 回	2022年度 16 回	2022年度 16 回	100%	目標が達成されたため、第2期計画には記載しないこととした。
5	【社会→経済】 1日（4時間当たり）の中央商店街の歩行者通行量	2019年12月 48,692 人	2022年 32,115 人	2022年 48,804 人	66%	【再掲】 目標達成に向け、第2期計画でも、市街地再開発事業など民間主導の取組を支援することで、魅力的な都市機能の強化や賑わい空間の創出を図るなど引き続き推進する。
6	【社会→経済】 県外からの移住者数	2019年3月 1,159 人	2022年度 7,082 人	2022年度 2,590 人	414%	目的が達成されたため、第2期計画には記載しないこととした。

愛媛県松山市 第 1 期 S D G s 未来都市計画：計画期間2020年～2022年

No	指標名	当初値	2022年実績	2022年目標値	達成度（%）	第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
7	【社会→環境】 中島での再生可能エネルギー蓄電容量	2020年2月 24 kWh	2022年 71.2 kWh	2022年 50 kWh	182%	目的が達成されたため、第2期計画には記載しないこととした。
8	【環境→社会】 公共交通機関の乗降客数	2017年3月 27,088 千人	2022年度 21,842 千人	2022年度 27,088 千人	81%	目標達成に向け、第2期計画では、2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組指標として、引き続き取り組みを推進する。
9	【環境→社会】 グリーンスローモビリティの乗車人数	2019年12月 0 人	2022年度 981 人	2022年 1,000 人	98%	概ね目標が達成されたため、第2期計画には記載しないこととした。

（ 5 ） 第 1 期SDGs未来都市計画の進捗評価結果を踏まえた総括

●特筆すべき事業内容

<達成度プラス>

・指標No(1)4「防災士数」：全世代型防災教育による防災への意識醸成を図り、大学と連携して防災士養成講座や大学生対象の短期集中講義を行うなど防災士の資格取得を促進した。

・指標No(2)2「空き家バンクのマッチング数」：HPやチラシ配布による空き家バンクの周知に加え、移住者に対するリフォーム補助や家財道具の搬出処分補助を行った。

・指標No(3)9「ZEHと蓄電池システムの設置補助件数」：脱炭素に向けた補助予算を増やし、HPやチラシ配布などにより市民への周知を行った。

・指標No(3)10「瀬戸内海国立公園内「ほしふるテラス姫ヶ浜」の利用者数」：パンフレット配布などの広報活動に注力したことやマイクロツーリズム需要の高まりによる修学旅行の誘致に加え、松山市SDGs推進協議会の「スマートアイランドモデル分科会」によるほしふるテラス姫ヶ浜でのグリーンスローモビリティの運用などに取り組んだ。

<達成度マイナス>

・指標No(1)1「観光客推定数」：新型コロナウイルス感染症の影響を受けた。今後、地域資源を組み合わせた旅行商品の造成や首都圏での旅行商品説明会を開催し、観光素材を案内するモデルツアーを実施するなど全国から誘客を進めるほかMICEの誘致に取り組むとともにインバウンド誘客に注力する。

・指標No(1)3「今後も松山市に住み続けたいと思う市民の割合」：市の総合的な取組に対しての市民の評価であり、各政策ごとに取り組みの見直しや新たな取り組みを行い、総合的に取り組んでいく。

・指標No(1)5「環境学習会等の受講者数」：新型コロナウイルス感染症の影響を受けた。今後、国内外の多様な主体と連携しながら先進的な情報の収集や活用を図り、オンラインを活用したイベントも企画しながら環境教育に取り組む。

・指標No(2)3「俳句ポスト投句数」：新型コロナウイルス感染症の影響を受けた。今後、俳句ポスト365をより認知させるためイベントや広報などで周知を行う。

・指標No(3)1「観光客推定消費額（市内）」：新型コロナウイルス感染症を受けた。今後、国内外の観光誘客にあわせて地域の消費が拡大するよう滞在時間延伸を狙った旅行商品の造成や地域の商店街などの魅力創出と情報発信に取り組む。

・指標No(3)5「自主防災連合会の訓練実施率」：新型コロナウイルス感染症の影響を受けた。今後、自主防災組織ネットワーク会議で自主防災連合会による訓練の実施を促進する。

・指標No(4)2「外国人観光客数」：新型コロナウイルス感染症の影響を受けた。今後、インバウンド需要の高まりに併せ、SNSなどを生かした情報発信のほか、航空会社と連携したプロモーションを行い、国際線の安定運航と交流の活性化を促すほか、欧米豪の外国人観光客が多く訪れる広島や関西圏から誘客する体制の構築に取り組む。

●成果

統合的取組である松山SDGsプラットフォーム事業の松山市SDGs推進協議会の「スマートアイランドモデル分科会」を核に離島の活性化や脱炭素に取り組み、「ほしふるテラス姫ヶ浜の利用者」、「中島での再生可能エネルギー蓄電容量」、「グリーンスローモビリティの乗車人数」の増加に寄与することができた。また、スマートアイランドモデル分科会への関係者も増加している。

●課題

・新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行を受け、大都市からの誘客を促進するとともに、インバウンド対策を強化し、積極的に観光施策を展開する必要がある。

・指標No(1)6「松山市域からの温室効果ガス排出量」では、目標達成に向け順調に進捗しているが、第 3 次産業が大半を占める本市では、民生部門（家庭・業務その他）と運輸部門の温室効果ガスの排出割合が高い。環境に優しい移動手段の普及拡大など地球温暖化対策とサステナブルツーリズムなど環境にも配慮した産業の活性化を両立させる必要がある。

●今後の展望

・歴史や文化のほか、豊かな自然環境など豊富な地域資源を活用しつつ、住民や観光客の多様なニーズに対応し、都市の魅力向上を図ることで選ばれる観光都市の実現を目指す。

・人流データに基づいた効率的な都市空間の形成や、来街者がスムーズに移動できる環境に配慮したモビリティデザインの整備に加え、災害に対して強靱なまちづくりとディーセントワーク（人間らしいやりがいのある仕事）の推進により、安全・安心で快適な都市の実現を目指す。

・脱炭素社会の実現に向け、再生可能エネルギーの「創」「省」「畜」の仕組みが拡大し、国際的な ESD の展開で環境への負荷が少ないライフスタイルへの転換や環境を重視する価値観が広がるなど、自然と都市が調和しているまちの実現を目指す。

（ 6 ） 有識者からの取組に対する評価

・空き家バンク、再生可能エネルギーの整備で重要な成果を上げている。

・松山の持っている歴史的観光資源は大きく、道後温泉本館も全面改修がオープンしたこともあって、さらなる事業展開に期待したい。ZEHと蓄電池システムの設置補助件数が大きく伸びていることは、環境への関心が高まっている証拠でもあり、継続して事業拡大に努めるべきである。